

とある兵士の日記

初月

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

駆逐艦雪風の機関砲手であるとある兵士の日記。彼が見た戦争とは？

他の連載小説の息抜きとして執筆する小説なのでかなり変則的な更新となると思います。

基本日記形式ですが日記じゃないのも投稿するかもしれません。

ちなみにオリジナルと書いているように艦艇名などはWW2からとってきますがストーリーは序盤参考にする程度です。

目次

設定

設定集（必読）

とある兵士の日記

8	7	6	5	4	3	2	1	
28	25	22	19	16	13	9	5	1

設定

設定集（必読）

注意

ここに日記内で書けなかったことがここに書いてあります。
そのため随時更新していくのでその都度ご確認ください。
なんで日記内に書かないかというところはただの俺の文章力不足
ですので気にしないでください。

まあこちらは気分転換以外で書くとは思わないので更新はかなり
遅いですが宜しくお願い致します。



皇国

大陸の東端にある内海を超えたところにある島々にある国。
帝政に近い体制をとっている。

ただ、国のトップが男女関係なく決まっていたので男女差別が無い
に等しい。

重巡と空母を2隻ずつ建造したところ帝国から資源の輸入をとめ
られたため大陸や南方の島々の利権を交渉で確保しようとしたが
失敗した。

そのために武力行使に移ったのだが帝国から1か月以内に撤退し
ないと戦争を始めると言われたため先手を打った。

ただ帝国との国力差は尋常じゃなく大きい。

帝国

200年ほど前に人類が新しく見つけた大陸で独立を果たした国。
皇国では帝国といわれているが純粋な民主主義国家である。

何故皇国で帝国などと呼ばれているかという態度がでかい点や、
軍備がかなりできている点などがあげられる。

第十六駆逐隊

”皇国”の海軍にいる駆逐艦部隊。

旗艦は陽炎型駆逐艦雪風で所属艦は同じく陽炎型駆逐艦である時津風、初風、天津風である。

第六駆逐隊

同じく皇国海軍の駆逐艦部隊。

旗艦は特型駆逐艦暁で所属艦は同じく特型駆逐艦である響、雷、電である。

陽炎型駆逐艦

皇国の最新鋭艦隊型駆逐艦。すでに改良型が出ているが皇国駆逐艦の主力の一端を担っている。

旧日本海軍のものと変わらない性能なので詳しくはウィキペディア参照。

特型駆逐艦

皇国の旧式艦隊型駆逐艦なのだが今ですら主力を務められるほどの高性能な駆逐艦である。

ちなみに特型の中でもさらに分けることはできる。

こちらも旧日本海軍のものと変わらない性能なので詳しくはウィキペディア参照。

祥鳳型航空母艦

高速輸送船として設計され完成までに潜水母艦、軽空母へと設計変更された。

1番艦が祥鳳で2番艦が瑞鳳なのだが潜水空母から改造された祥鳳が建造中に設計変更を受けた瑞鳳より遅く進水している。

詳細はウィキペディアを。

翔鶴型正規空母

皇国が今までに作った正規空母から得られた情報を参考にして
もつともいい性能を発揮するように造られた正規空母。

開戦時では最新鋭正規空母であり、敵母港空襲にも参加した。

それ以外は変わらないので

詳しくはウィキペディアを。

金剛型戦艦

前の大戦のときに発注、建造された巡洋戦艦が老朽化しあまり使え
るものではなくなくなってしまったために帝国との戦争が始まる前に高
速戦艦へと改造することで現在もつとも最前線で活躍している戦艦。

金剛、比叡、榛名、霧島の4隻が同型艦として存在する。

詳しくはウィキペディアを。

※艦船は改装前は旧日本海軍（1941年12月08日）のときと
変わらないものです。

改装などがあつた場合には設定に追加していきます。



主人公設定

性別：男

年齢：27

階級：一等兵

乗艦：駆逐艦睦月⇒駆逐艦雪風

担当：機関銃座

趣味：絵を描くこと。日記は絵の説明ついでに書いているうちに習
慣化した。

その他：本国にいる幼馴染と婚約しているが子どもはまだいない。
顔は普通よりすこしマシな程度。

性格はおとなしく見えるが本当はかなり活発的。船酔いに

はかなり強い。

なお射撃に関しては知り合いのパイロットからも教わったため予測射撃を行う。

艦長設定

性別：女

年齢：不明（どうやら20代のようだ）

階級：少佐

乗艦：軽巡洋艦五十鈴（航海長）⇒駆逐艦雪風（艦長）

趣味：不明。航海長曰くコスプレだという話だが

それを聞いてしまったものの多くは次の日には何故か覚えていないようだ。

その他：スタイルとか顔とかはいいのだが何故か彼氏が居ない。

ちなみにボクっ子である。

かなり有能だったようで若くして駆逐隊を指揮するまでに至る。

とある兵士の日記

1

○月1日 晴れ

俺の所属している第十六駆逐隊に出撃命令が下った。

”皇国”より遙かに東にある島を砲撃してこいという命令だ。

他にも駆逐艦が数隻参加するようなんだがそんなんで生きて帰ってこれるのだろうか？

まあ航空機はこの俺が機銃弾ばらまいて落としてやるぜ！

この命令が下りたってことは資源とか軍備とかでもめてきた”帝國”との戦争が起きるかもしれない。

○月2日 晴れ

出撃してから一日。別に異常はないのだが波が高いため新兵が何人か吐いた。

合流地点にいたのは本当に駆逐艦だけだったので驚いたのだが見つかってしまった場合の逃走劇を考えると駆逐艦だけで正解なんだろうか？なんて思った。

だからといって駆逐艦だけでの敵地突撃が怖いのは変わらない。

○月5日 大雨

波が高かったため予測はしていたのだが3日と4日はひどい嵐だった。

おかげで日記になにも記録できなかつたのが悔やまれる。

今日は風が引いてきたので目標地点につくころには晴れてしまうかもしれない。

乗り心地は悪いのだが駆逐艦での襲撃なら晴れては欲しくない。

○月6日 小雨

なんてことだ。

天気がどんどん晴れてきてしまっている。

これでは皆が疲れているときに反撃を受けかねない。

どうか当日は雨が降りますように。

○月7日 曇り

ついに雨が止んだ。

新兵は波に揺られなくなって喜んでるようだが艦長や俺をはじめとするベテランはかなり複雑な心境だった。

気持ちよく寝れるのはいいけど死にたくはない。

幸いどうやら一撃離脱だけでいいようだから敵の反撃を防ごう。

○月8日 快晴

俺らに運は無かったようだ。

と言いたかったのだが予想より早く着いたため薄暮攻撃が可能となった。

ただの12・7cm弾だからそこまでの損害は出せなかったようだが大きな反撃は防げたようだ。
やったぜ。

ただ離脱中に敵偵察機に発見されたので明日は戦闘があるかもしれない。

○月9日

深夜に誰かにたたき起こされた。

その直後主砲の発砲音がした。

どうやら夜戦が始まったらしい。

全力で機銃座に向かう途中に機銃弾の着弾音が聞こえる。
かなり敵艦は近いようだ。

定位置につき周囲を確認したときもとても近い敵艦との距離が500mぐらいになっていた。

見張りが新兵だったのだろうか？

その直後俺は初めてこの機銃座で”敵”を撃った。

でも俺が定位置についてから30分せずに決着がついたようだ。

余りにも近かったため少し先に発見し、初弾命中させたこちら側が有利となり敵艦は撤退していった。

戦果は駆逐艦2隻、被害は短艇1隻が機銃弾で穴だらけになっただけだ。

その後俺は朝まで見張りをして寝たのだが次の日まで起きることはなかった。

○月10日 晴れ

起きたとき海の向こうの大きな帝国との戦争が始まったと聞かされた。

この帝国とは数年前から資源輸入や南方海域での利権などでもめてたから危ないとは思っていたのだが遂にきたようだ。

遠くの同盟国も戦争をしていたはずだからさながら世界大戦だな。

でも国力差がとてつもなくあることが分かっているのに戦争を始めたのか…。

正直勝てる気がしない。

そんなことを一下級兵士である俺が考えてもしょうがないか。

とにかく母国の家族に戦火が回らないように戦いに勝っていくのに助力するだけだ。

しかしほぼ先陣をきれたのはうれしいかな。

そんなことを考えていると遠くに大型艦を見つけたので一応艦橋に報告した。

その後の艦内放送で分かったのだが俺が見つけたのは帝国の港を強襲してきた空母の護衛だったらしい。

合流しようという話になったのだが敵潜水艦を見つけたので対潜行動をとっていると空母艦隊はどこかへ行ってしまった。

この日の夜第十六駆逐隊は最前線となっている小さい島に囲まれた基地についた。

○月11日 晴れ

昨日ついた港に接岸することになった。

どうやら戦力を整えて先日襲撃したあの基地を占領するようだ。

おかげで1週間の休暇が出来たのだがあまりにも僻地過ぎて探検くらいしか出来ないだろうな。

なにも出来ないところで休暇なんて無念なり。

○月18日 曇り

俺たちが休んでいる間に重巡洋艦古鷹、加古、青葉、衣笠と軽巡洋艦夕張、天龍、龍田が第六駆逐隊を連れて来た。

あと古鷹の乗組員に聞いたところによると沖合にて軽空母瑞鳳を旗艦とする空母艦隊が輸送船団の近くにいるとかいないとか。

古い船が多いが全力で落としに行くようだ。前の襲撃と比べて安心して突撃できそう。

○月19日 晴れ

朝食を食べてから数時間後出撃命令が下りた。

今回の任務は輸送船団の護衛のようだ。

またもや潜水艦相手に戦うのは疲れそうだが瑞鳳が直掩を出してくれるから大丈夫かな？

○月20日 霧

朝食を食べ終わったところ霧に紛れて水雷艇に接近された。

雪風、時津風に対し雷撃があったようだが回避できたので航行に支障はない。

だがここで襲撃を受けたということは情報は筒抜けということだ。警戒せねばなるまい。

○月21日 晴れ

今日は最高の爆撃日和となっていました。

おかげで朝から空襲続きだ。

だが幸い飛んでくるのが重爆だけなので命中率のかなり低い水平爆撃だけなので来ててもひたすら回頭すればどうにかなった。

ただ予定からかなり遅れてしまったので突撃は明後日になりそうだ。

○月22日 快晴

またもや最高の爆撃日和。

あの島に近づくにつれて機種が重爆から降爆や艦攻に変わってきた。

航空基地でもあるのだろうか？

攻撃を仕掛けてくる敵機に対し友人のパイロットから教わった予測射撃なる技術を使って対空射撃をしていたら2機落とすことが出来た。

あと少しでエースになれたりするのかな？

○月23日 曇り

23日未明、遂に上陸地に到着する。

上陸地周辺から火が上がっていることを察するに友軍艦隊が砲撃を行ったようだった。

ちなみに俺らは支援砲撃の傍らで対潜行動を敢行、大損害を与え浮上してきたところを鹵獲した。

これでまた第十六駆逐隊の戦果は増えましたとさ。

それにしても港湾施設や航空基地に比べて妙に敵が少ないな。

○月24日

早朝に突然総員第一種戦闘配備命令が下った。

その掛け声とともに全力で機銃座に上がり朝霧の中見えたのは少数の航空機と重巡洋艦6隻を主体とする敵艦隊だった。

どうやらわざと上陸させ油断したところで襲うという計画を立て

ていたようだ。

無駄なことを考えていると時津風左舷後方より軽空母鳳翔が単装砲を撃ちまくりながら数隻の駆逐艦や輸送船とともに離脱していく。いらないと今まで散々言われてきた対艦用の単装砲がこんなところで役立つなんて一体だれが思っていたんだろうな。

そのままボサツと鳳翔を眺めていると第十六駆逐隊を先頭に駆逐艦が敵艦隊へ向け突撃していった。

発射管より次々と撃たれる魚雷、けたたましい音をかなりの速さで出していく主砲。

あんまり機銃座の活躍しない艦隊戦である。

活躍しないくらいなら敵の攻撃も無い方がいいな。戦争中だから無理に近いけどさ。

そんなことを考えていると後方で着弾音が鳴った。

どうやら時津風に敵駆逐艦の砲弾が直撃したらしく機銃座が何基か吹き飛んでいた。

自分の未来を見ているようで少し寒気がした。

でも連射中の機関銃によってかき消される。

そして今度は敵艦隊のほうにて大きな水柱が10回上がる。

魚雷が何本も炸裂したようで敵艦が3隻ほど折れるのが爆発の最中に見えた。

大きさからみて軽巡2、駆逐艦1だろうか？

とにかく誰が撃った魚雷かは分からないがやったぜ。

このときに瑞鳳と鳳翔の離脱が完了したようなので俺たちもあとは先ほど到着した前衛艦隊に任せ離脱することにした。

あとで聞いた話によると戦果は重巡1、軽巡3、駆逐艦4を撃沈、ほかに重巡1を拿捕し軽巡1と重巡3、駆逐艦2に損害を与えたようだった。

友軍の損害は青葉小破、衣笠中破、加古軽損傷、夕張中破、時津風中破といったところで友軍の勝利で間違いないようだ。

その後上陸も無事完了し、俺たちは衣笠、夕張、時津風を島嶼基地護送することになった。

明日からまた出撃だ。

○月25日 晴れ

俺たち第十六駆逐隊（時津風を除く）は昨日の海戦で中破し応急処置を施した衣笠、夕張、時津風を島嶼基地へ護送せよと命令され護送しているのだが・・・僚艦を護送するのは随分と変な気分になる。

下剋上された気分ってこんな感じなんだろうか。

でも病人を丁重に扱うように損傷艦も丁重に扱わなければいけないのかな。

そんなことを考えていると上空を友軍の零式艦上戦闘機12機と一式陸上攻撃機8機が通過していった。

先日上陸したあの島の残存兵力を根こそぎ焼き尽くすつもりなのだろうか？

まあ俺らには少なくとも今は関係ないことだから情報が来るのを待とう。

○月26日 晴れ

敵襲無し。

衣笠が射出した零式水上観測機を眺めていたら艦長が異郷の地であつた曲を流してくれた。

それ以外に書くことはなかったな。

○月27日 曇り

天候がまた悪くなってきたが、想像以上に順調に航海が進んだためもう島嶼基地についた。

おかげで時化の出撃は回避できそうだ。

あと探照灯で「貴艦ノ護衛ニ感謝スル」と言われた。

そのあと雪風も探照灯で何か返したようだが角度が悪く読み取れなかった。

そういえば明日以降は何をするのだろうか？

○月28日 雨

昨日から危惧していた雨だが思っていたほどひどいものではなかったようだ。

だが駆逐艦だから結構揺れていた。

島嶼部に停泊しているのにこの揺れということは外海はもつとひどいのだろう。

新兵たちが危ぶまれるが慣れるまで我慢してもらおう以外ないかな。

○月29日 晴れ

台風一過の青空ってやつだろうか？

見事な快晴だ。

これなら快適な航海になるだろう。

あともう一つ。

時津風の損傷が治るまで第十六駆逐隊は一時的に護衛戦隊に入ることとなった。

明日からは多分出撃ラツシュだ。

○月29日 晴れ

早速出撃である。

護衛するのは2隻の輸送船。

先日占領した基地へ向かうようなので多分陸軍の部隊を運んできたのだろう。

初めての船団護衛で数百人の命を預かることになるとは……。

○月30日 晴れ

早速潜水艦に遭遇した。

だが護衛戦隊旗艦を務めている雪風が向かうことはなく、初風単艦での対潜行動となったようだ。

まあ機関砲が活躍することはないので爆雷が巻き起こす水柱をただただ眺めているだけとなったんだけど。

ちなみにこの後に遭遇した偵察機はこちらに気づくことなくどこかへ飛んで行った。

一体なんだったんだろう？

気付かなくて去ったのならいいのだが・・・。

○月31日 曇り

また偵察機が来た。

だがすぐ帰って行った。

嫌な予感がするので機関砲の近くに居ようかな。

△月1日 曇り

早朝に艦載機と思われる降爆隊の空襲を受けた。

機種はSBDだろうか？

発見が遅れていたため迎撃できたのは俺と人が居たらしい第2主

砲塔のみだったが4機だけだったのでどうにかできた。

雪風の戦果がまた増えたぜ。

その後上陸中の輸送船を護衛してたりもしたのだがB-17E2機が全く違うところに爆弾をばら撒いて行った以外に何もなかった。

△月2日 晴れ

小さな港があるだけの基地での上陸は結構時間を使うようだ。揚陸艇を出すわけではないのでなおさら。

その間護衛隊である雪風は輸送船の近くを航行するのだが航空機が来ても早速配備された戦闘機が落としてくれるのでやることはなかった。

ちなみに来たのは相変わらずB-17。

余っているんだろうか？

△月3日 晴れ

上陸が終わったようなので輸送船を守りながら島嶼基地への帰路につくこととなった。

あと残っていた上陸支援艦隊も俺たちとともに帰るようだ。

おかげで何も積んでいない輸送船2隻を軽空母1、重巡洋艦3を主体とする艦隊で守るといふ奇妙な光景が生まれた。

明らかな過剰防御だと思う。

△月3日 快晴

最近雪風に不穏な噂がある。

どういうものかというとき水兵服を来た少女の幽霊を見たというものだ。

女性である艦長が何かしているのを見間違えたのではとか艦長の目の前で言った航海長が鉄拳制裁にあつたらしい。

話の真偽は不明だが別段気にする必要も無いだろう。

ちなみに雪風の艦長は第十六駆逐隊の司令官も兼任している結構すごい人である。

有能女性司令官兼艦長。それがうちの艦長の肩書だ。

△月4日 晴れ

島嶼基地へ帰還した。

それで護衛任務も一旦解除されたので停泊中だ。

時津風があと1週間くらいで戦線復帰できるようなので多分哨戒任務ぐらいしか回ってこないだろう。

もしかしたら休暇が来るかも。

△月5日 曇り

1週間半舷上陸の許可が出た。

やはり時津風戦列復帰まで休めるようだ。

あと敵の戦艦が出てこないのは一か月前に敵母港にあった燃料を焼き払い、艦船に被害を与えていたからというのが大きいのだろう。空母と航空隊に感謝だ。

△月6日 曇り

今日は艦長に呼び出された。

なんか軍規違反でもしたのかとか思ったら対空射撃での撃墜数が多いので他戦隊の機関砲手の教官をやってほしいそうだ。

作れるのなら教本だけ作って終わりでもいいらしい。どちらにしろ忙しくなりそう…。

△月7日 曇り

訓練の話はどうするか、正直かなり迷っている。

予測射撃って半分感覚でやるものだしそれに曳航目標なんかを撃つには少々危ないのだ。

下手すれば曳航機を誤射しかねない。

まあそこら辺は艦長と話し合えばいいか。

△月8日 晴れ

開戦からちようど一か月が経った。

南方では快進撃をしているようだが一つ一つの基地の距離がかな

り遠い中部戦線では大して戦線が動くことはない。

中部戦線で開戦の日を除き一番大きな海戦だったのは鳳翔の14cm砲が大活躍したあの海戦くらいだろう。

あと艦長から訓練の件で提出を強要されたので徹夜で頑張った。

そのあと「今日頑張ったから明日明後日は自由に動いちゃっていいよ」みたいなことを言われたので十分休むことにする。

ちなみに俺は教本のほうにすることにしておいた。

△月9日 曇り

ここ最近晴れが続いていたから俺の休みも晴れるかと思っていたのだが曇ってしまった。

日向ぼつこでもしながら昼寝でもしようかと思ったのに…。

おかげで暇になってしまったから島嶼で演習をしている巡洋艦でも眺めることにした。

△月10日 曇り

やっぱり休みって書くことが尽きるな。

そう書こうと思っていたのだが今日島嶼基地になんとかよくわからない戦艦が入ってきた。

帝国や皇国のどの戦艦にも似てないけど皇国海軍旗をあげているから友軍のようだ。

これでやつとこの戦線でも戦艦が動くのか……。

△月11日 雨

昨日見た戦艦の名前は大和というそうだ。

機密が多いようで聞けたことは少なかったが総括すれば艦隊決戦用兵器だな。

先月に航空機で燃料を焼き払ったから動ける戦艦が居なかったはずなんだけど動く機会はあるのだろうか？

△月12日 曇り

休暇は今日で終わりだ。

俺たちは瑞鳳の護衛として友軍の増援との合流地点へと向かう。

古鷹と加古も合流地点へと向かうらしい。

それ以上の情報は生憎知らされていないがなんだかんだいって結構重要そうな任務だな。

△月13日 晴れ

今日あったことといえば島嶼基地の哨戒部隊が訓練ついでに訪れただけだった。

あとはそれが去った後に戦闘配置に何秒でつけるかの訓練だけだったな。

しかし突然総員戦闘配置とか言われるのは心臓に悪い。

△月14日 晴れ

無事に合流地点に着いた。

そこで見たのは高速戦艦2、正規空母2と多くの輸送船の護衛郡だった。

これから参加する作戦はかなり大きな作戦のようだ。

戦艦は艦橋の形からして比叡と霧島、正規空母は多分翔鶴と瑞鶴だな。

こんな勇士を見るのは久しぶりだ。

だけど護衛対象の瑞鳳はそれにくっついて来た輸送船団の護衛になったので正規空母の勇士を見るのはお預けである。

まあそのうちまた見れるだろう。

△月15日 晴れ

第十六駆逐隊は瑞鳳や輸送船団とともにさらに南下した。

直掩機の数が増えてきているところをみるともう敵の勢力圏内なのだろう。

どうやら上陸作戦を敢行するようだ。

でもこんな大規模に展開して占領するところなんて珊瑚海の手前にある要塞基地くらいしかないだろう。

何て地名だったかな？

△月16日 曇り

遠くに大きな島が見えてきた。

やはり要塞基地に上陸するようだ。

ただこの荒天では航空支援は望めないかもしれない。

そうなったら俺たちだけでの捨て身の突撃か晴れるまで周辺を航海するのか・・・。

晴れるように祈っておくか。

△月17日 曇り

今日も雨が降りそうな空に怯えながら甲板をぶらついていると上

空を大編隊が通り過ぎた。

どうやら友軍機のようにだ。

その数時間後遠くのほうで黒煙が上がるのが見えた。

そして雪風は周りの艦と同じように黒煙のあがるほうへ回頭した。

その後第十六駆逐隊など瑞鳳護衛部隊は瑞鳳とともにギリギリまで輸送船団についていった後離脱した。

・・・要塞相手の艦砲射撃をするはめにならなくてよかったぜ。

△月18日 曇り

今日も上空を友軍の急降下爆撃機やら攻撃機やらが飛び交っていただけでなにもなかった。

多分敵戦力は上陸船団とその護衛に釘付けされているのだろう。暇だけど戦わなくて済むのは少しうれしい。

△月19日 晴れ

なんということだろうか。

砲撃で要塞にかなり被害を与えたとはいえこの絶好の爆撃日和では周辺の敵基地から航空隊が来るかもしれない。

久しぶりに機銃座担当の俺が活躍でもするのだろうか？

△月20日 晴れ

また絶好の爆撃日和になった。

おかげで4発爆撃機や2発爆撃機がやってきたが零戦隊の奮戦によりはるかかなたに水柱が上がっただけだった。

敵の攻撃機や降爆が来ないかぎり機銃が唸ることはなさそうだ。

△月21日 曇り

今日は爆撃日和ではなくなった。

そして瑞鳳とその護衛艦群は上陸を済ませた輸送船団とともに島嶼基地へと帰ることになった。

日記に書くことはなくなるが、無事に帰れることを祈る。

△月22日

早朝、敵潜水艦の襲撃を受けた。

輸送船数隻がやられたようだ。

だがその後船団護衛をやった奴らが反撃し、敵潜水艦の拿捕に成功したようだ。

あと今回の件で航路も変えたようだ。
敵に航路が漏れていたのだとしたらかなり怖いものがあるな。

△月23日 晴れ

今日は敵の哨戒機と思われるでかい飛行艇に遭遇した。
一応配置にはついたが機銃が役に立つほどの距離へは近づいてこなかった。

飛行艇と遭遇したのが日が落ちる直前だったので今夜は寝ようかどうか迷っている。

1時まで襲撃がなければ眠ろう。

△月24日 曇りのち嵐

水雷艇による薄暮攻撃をうけた。

機関銃座士の俺は機銃掃射を敢行し、1隻を沈めることができた。
多分積んでいた魚雷にあたったのだろう。

だがこの襲撃がもたらした損害は案外大きかった。

輸送船1隻が大破により機関停止して初風に雷撃処分され、ほかに
は駆逐艦が数隻小破した。

その後航空攻撃を警戒したもののスコールに変わったおかげで逃
げることができたようだ。

明日には島嶼基地へとつくだろう。

△月25日 雨

波に揺られ新兵が数名体調を崩してはいるが運はいいのだろう。

雨の中を進むことにより昨日の朝以降敵に遭遇することも無く島
嶼基地へと帰還することができた。

ここ数日あまり眠れなかったので今日は早く寝ることにしよう。

△月26日 雨

どうやらまだ俺らに休みは無いらしい。

島嶼基地から前線の基地へ行く輸送船団の護衛任務をするようだ。

今のところは順調だが敵の母港に近い海域での行動だから気を引き締めないとな。

△月28日 晴れ

問題なし。

前線だというのにこんなに静かなのは少々怖い。

△月29日 晴れ

PBYと思われる敵飛行艇に発見された。

結構弾を当ててやったが落とせなかったので今晚から潜水艦に気をつけなければいけない。

△月30日 晴れ

昨晚敵潜水艦と交戦することが数回あっただけでそれ以降飛行艇にすら遭遇していない。

航路を変えたのが功を奏したのか嵐の前の静けさなのかはわからないが、明日にはちゃんと補給を届けられるだろう。

□月2日 晴れ

今頃になって気付いたが、どこかで一日ずれてしまったようだ。

日付の確認ついでにこの日記を書いていたつもりではあったがその効果はあまり無かったよう。

一々全部書き換えるのは面倒なので今日からまた正しい日付とする。

荷卸も問題なく終わった。

あとは帰るだけだ。

□月3日 曇り

なんだか久しぶりに太陽が見えない日になった気がする。

少し不安だ。

あと、電探に何か引っかけたみたいで戦闘配置を行ったりした。

なんにも遭遇しなかったのは単に運がよかつただけかもしれない。

□月4日 曇り

潜水艦の襲撃を受けた。

幸いなことに魚雷が発弾だったため被害はなかった。

だが逃げる際にこちらの位置を報告しているだろう。

明日も警戒しなければならぬ。

□月5日 嵐

運がいいのか悪いのか。

嵐になったおかげで潜水艦を発見できないと同時に竜骨を一撃で折ってくる磁気信管魚雷の心配はしなくていいようにはなった。

でも海が荒れすぎてて魚雷の航跡を視認できないかもしれない。

□月6日 嵐

輸送船が1隻やられた。

でも航跡が波で掻き消されて正確な発射点を捕捉出来なかったのは痛い。

さらにまだ嵐に慣れない新兵が本調子を出せていないのも辛い。

□月7日 雨

やっと前線基地に着いた。

雨が降っている間に出港できればいいが、そう都合よく事は進まないだろう。

停泊中に攻撃されなければいいが…。

□月8日 曇り

遂に雨が上がった。

明日か明後日には爆撃日和となるだろう。

今のうちに休んでおくことにする。

□月9日 晴れ

島嶼基地へ向け前線基地を出港した。

これからは暫く晴れるので持ち場から離れないほうがいいだろう。今日は敵に会わなかったが気を付けておかなければならない。

□月10日 晴れ

天気も良く波も対して高くはないそんな1日だった。それ以外に書くことはない。

□月11日 晴れ

味方の飛行艇に遭遇した。

哨戒訓練ついでのだろうが最近ずっと気を張っていたので有り難かった。

島嶼基地まで長くてあと1日だろう。

□月12日 晴れ

島嶼基地に到着した。

波浪による損傷や改装などで一度本土へと戻るようだ。

出港は明日なので今日はゆっくりと休むことにする。

□月13日 晴れ

夕方に友軍の戦爆連合が飛んで行った。

近くに攻略作戦でもあるのだろうか？

まあ帰ってくる頃には決着がついているだろう。

どうやら今回は特設空母と輸送船2隻を守りつつの帰還のようだ。

□月14日 曇り

ついできた駆潜艇が潜水艦を発見したようで天津風と第五号駆潜艇が対潜攻撃を行った。

だが逃げられたようだ。

まあ被害はないから今のところはいいや。

□月15日 曇り

第五号駆潜艇が対潜行動の後緊急浮上した敵の潜水艦を拿捕してきた。

今まで雪風で前線に出てきてあまり見ることの無かった大破艦。

少し背筋が凍り付いた。

船に乗っていると感覚が薄れてくるが俺たちは人を相手に戦っているんだ。

そう痛感した。

□月16日 晴れ

拿捕した潜水艦や、相次ぐ対潜行動による爆雷不足により味方の泊地に寄ることになった。

捕虜の引渡しもここで行うようだ。
ラムネの配布もあるようだ。

□月17日 晴れ
天気晴朗なれども波高し。
そんな天気だった。

あとなぜだか知らんが機銃座員内でのラムネ製造機設置の要望書を俺が代表して出しに行くことになった。

□月18日 曇り
今日艦内放送が入った。

俺たちの部署以外からも要望書が出たようで、どうやらラムネ製造機を雪風の中にも設置できるように司令部と交渉してくれるらしい。やったぜ。

□月19日 晴れ
友軍飛行艇が出迎えてくれた。
もうそろそろ本土だと思いと少しうれしい。

□月20日 曇り
南方へ向かう機動部隊とすれ違った。
ざっと見たところ正規空母が2隻もいた。
これから大規模な作戦でもあるんだろうか。

□月21日 晴れ
遂に本土へ帰還した。
10日ほど休みがあるので実家に帰ろうと思う。
幸いここからは近い。

◇月1日 曇り
家族に見せるために書いてきたこの日記だが、地名をそのまま書き

ていたのでこの部屋においていった。

ここまで書いたものが検閲にかかって取られてしまうのはさすがに悲しい。

休暇は終わりとはいえ自由時間も多いのでその書き直し作業から始めたいと思う。

◇月2日 雨

生憎の雨ではあるが他の艦へと転属となる者の送迎会をおこなった。

同じ部署の者も行ってしまいうようで少し悲しくはなるがまた会えることを祈ろう。

◇月3日 曇り

遂に明日出撃だ。

今度は味方の軽空母や重巡と北方へ向かうらしい。

少し早いが冬服の準備を始めておくようにと艦長からも言われたのでかなり北へ行くのだろう。